



人生はいつも途中

古谷 陽介

from シリコンバレー



### Prologue

中距離走が得意だった私は、公立中学校から当時、全国高校駅伝で実績があった高知工業高校に進学しました。しかし、故障続きの私は結局、あこがれの「都大路」(京都)を走ることはありませんでした。

陸上部一筋で中高校生時代をすごした私には英語と国際交流は無縁で、「外国人は宇宙人みたいなもの」、「海外に行く人は、小さいときから英語を勉強しているか、特別な環境で育った人」だと思っていました。

そんな私が変わっていったのは、いろいろな人と出会い、彼らから学び、チャレンジすることで少しずつ成長することができたからです。

私は今、アメリカ・カリフォルニア州のIT企業が集中しているシリコンバレーで働いています。高校卒業まで英語とも海外とも無縁だった私が、「どのようにシリコンバレーにたどり着いたのか」をお話します。

### Regrets of an 18-year-old

きっかけは、高校卒業後に就職した徳島県の会社での新入社員研修でした。海外の大学を卒業した新入社員の同期と話をするうちに、海外で働くことに憧れを持つようになったのです。さっそく人事部に行き相談しました。返事は、「採用条件から工場の外で働くのは難しい」というものでした。

私は、大きなショックを受けました。

「これまで、どうして人生に対して深く考えてこなかったんだろう」と後悔しました。

### Life-changing experiences

一年半後、会社に辞表を出した私は、背水の陣で大学受験の勉強を始めました。なんとか無事、高知大学に進学できましたが英会話力には劣等感を感じていました。

大学2年生の時、大きな転機が訪れました。

日本政府が **Life-changing experiences**

(人生を変える経験)をキャッチフレーズに実施している「グローバル人材の育成事業」の情報を、同事業に参加した大学の友人から教えてもらったのです。聞けば、彼が参加した「世界青年の船」事業は、最もインパクトのある事業だということで、早速、私も彼と同じ「世界青年の船」事業を目指しました。



# KOCHI IYEO 30<sup>th</sup> Anniversary

Newsletter vol.9



### Google Silicon Valley's

受験対策の成果もあって東京の二次試験にも無事合格。6日間の日本参加青年事前研修を経て **2010** 年度 第 **23** 回「世界青年の船」事業の日本代表青年となりました。



「ふじ丸」

**2011** 年 **1** 月下旬、「ふじ丸」に **126** 人の日本人青年と **136** 人の外国人青年が乗船し

「**One Ship, One Heart, One World**」をスローガンに掲げ、**41** 日間の外洋航海が始まりました。航路はソロモン、フィジー、オーストラリア、バヌアツの **4** 国と沖縄で、公式訪問国はフィジーとオーストラリアの **2** 国国です。その他は給油・給水地ですが青年たちは下船して自由時間を楽しむことができます。

私は、この事業を「修学旅行の世界版」だと表現していますが、先輩たちは一様に「体験した人しかわからないから参加してもらえない」というような表現をします。

### Working holiday

夢のような「ふじ丸」での研修が終わり、「もっと英語がしゃべれるようになりたい」という夢が芽生えてきました。早速、休学を決めた私は、「ワーキングホリデー」を利用した **1** 年間の「オーストラリアアルバイト & 英語学習計画」を実行に移しました。

### Silicon Valley

大学卒業後は、海外勤務のチャンスを探し、ある東京の会社に就職しましたが、入社後、会社の方針変更でその夢は消えました。

それでも海外勤務の夢を諦めきれない私は、**1** 年後、海外勤務の可能性のある京都の会社に転職。早々、アメリカ顧客の営業担当者に配置され喜んだのもつかの間、アメリカ人の英語についていくのが大変で、必死で業務をこなす日が続きました。

数年後、私は念願だった海外赴任が決まり、現在、シリコンバレーで仕事をしています。以上が、高知からシリコンバレーまでの道のりです。

### We have a chance

今は、資金が無くてもワーキングホリデーを利用して海外生活ができたり、高知に在住しながらでもリーズナブルなオンライン英会話レッスンを受れたり、「**University of the People**」というアメリカのオンライン大学で勉強することもできます。

「もう遅いかな?」なんて思わないでください。

「夢を持つ」「努力する」「人生を変える」ということに遅すぎることはありません。なぜなら、私達が歩んでいる道に到着点はなく、いつも途中だからです。

### KOCHI IYEO HP



2024年7月10日発行

発行者

高知県青年国際交流機構

(KOCHI IYEO)

会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ [xiwang@yacht.ocn.ne.jp](mailto:xiwang@yacht.ocn.ne.jp)